
ビッグデータ利活用のモデル紹介と 実機検証に向けて

2017年02月15日

日本OSS推進フォーラム

ビッグデータ部会

日本電気株式会社 川畠 輝聖

- 本年度のOSS推進フォーラム ビッグデータ部会において、ビッグデータOSS利活用を推進する施策の一つとして活動をはじめた「ビッグデータ利活用のモデルの紹介と実機検証」について、状況と今後の活動計画を報告します。

- ビッグデータに関連するOSSが近年盛り上がりを見せているが、その活用に対するハードルは依然として高い



何故？

- たくさん新しい技術が出ており、どこから手を付けて良いかわからない
- 関連ソフトウェアが乱立し、なにを使えばよいかわからない
- そもそもビッグデータでなにができるのかが分からない
- 導入の技術的な敷居が高い
- 導入効果が不明瞭



- これら懸念事項の解決の手助けとして、ビッグデータ活用、OSS基盤利用について分かりやすくイメージができるものを提供

目標

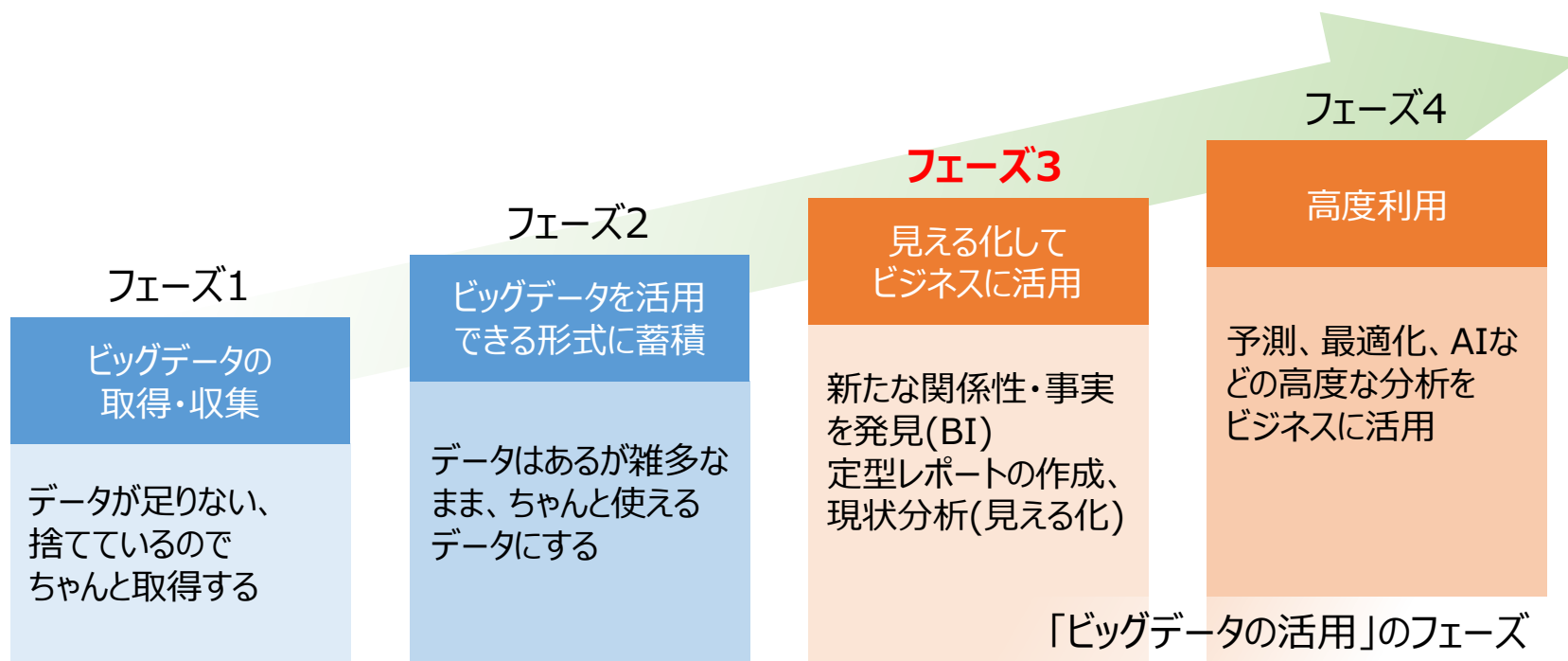
- OSS基盤を利用したビッグデータ活用の基本的な例を示し、導入効果やデータのフローが分かるようにする
- ユーザの課題解決に必要なコンポーネントが分かるようにする
 - どのOSSを選択すればよいかの指標



活動方針

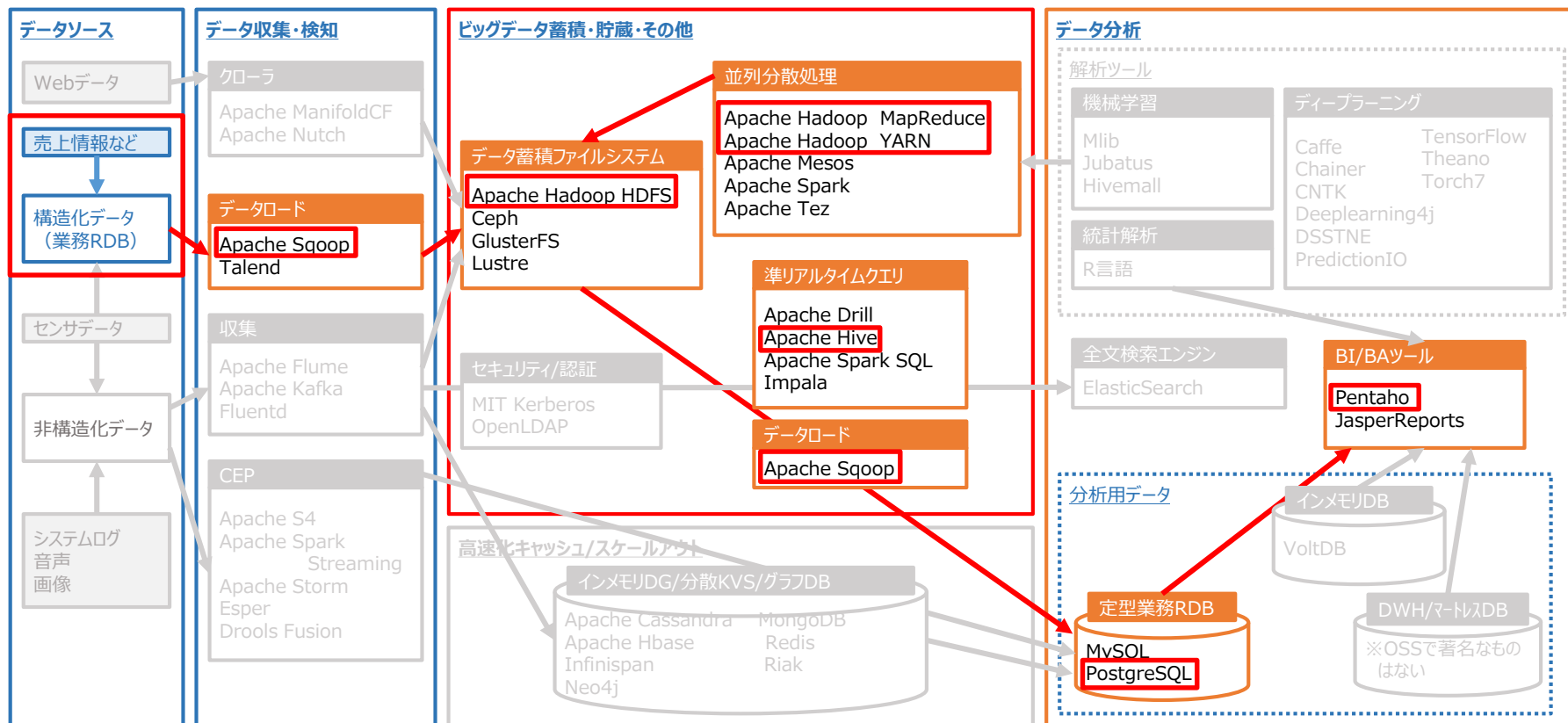
- ビッグデータ活用のモデルとなるユースケースを数パターン挙げる（机上検証）
 - OSSの選定の仕方、連携の仕方の根拠を提示
 - 利用イメージ、データフローの説明
- モデルとなるユースケースのうちいくつかを実機で組んでみる（実機検証）
 - 手順の明確化
 - 机上検証だけではわからないようなことに対する気づき

- ビッグデータの利活用には下図のようなフェーズがあると認識
- それぞれのフェーズにおけるユースケースと各種OSSの組み方を提示していけるとよいか
 - フェーズ3からビッグデータ利用がビジネスに生きてくる



- ビッグデータに関連するOSSは下記の図のようにたくさんある
- これらのカテゴリ、コンポーネントをどうつなげると、どのようなデータの流りができ、何ができるか、が分かるようなモデルの紹介を目指す

フェーズ3(見える化)のモデルのイメージ ~業務RDBを集約してBIツールで分析



作業時期	作業概要	
17年2月～7月	ユースケースの調査・選定	<ul style="list-style-type: none">ビッグデータ活用に対するニーズを収集・調査検証の対象となるユースケースを決める
17年5月頃	ビッグデータ部会セミナー実施	<ul style="list-style-type: none">上記と合わせてニーズのヒアリングを実施
17年7月～10月	机上検証	<ul style="list-style-type: none">対象コンポーネントの選定各コンポーネントの連携について調査
17年10月～12月	実機検証	<ul style="list-style-type: none">机上検証したもののうち、最低一つ以上を実機で検証スクリプトレベルで実装できるものについて実施する
17年12月～18年2月	成果報告・まとめ	<ul style="list-style-type: none">成果取りまとめ報告資料作成(予備期間も含む)

ご清聴ありがとうございました。

•その他、本資料に記載の会社名、製品またはサービス名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。